



# 小栗上野介情報72

ホームページHttp://tozenzi.cside.com/ Eメール: tozenji@clock.ocn.ne.jp

2018(平成30)年10月  
発行:東善寺 住職 村上泰賢  
群馬県高崎市倉渕町権田169  
〒370-3401  
Tel・fax:027-378-2230  
〒振替0120-1-406206東善寺

## 「罪なくして斬らる」非命150年

\*「明治150年」ではありません

## 高崎で小栗上野介企画展

◇11月2日～7日／シティギャラリー

◇主催小栗上野介顕彰会

小栗忠順が建設を推進した

### 横須賀製鉄所（のち造船所）は日本近代化の基盤となった

\* 明治政府の宣伝「日本は明治以後近代化した…」は誤り

【群馬県の例 1】

#### ◇富岡製糸場は横須賀造船所の妹

明治4年に建設が開始された富岡製糸場は

1、横須賀造船所建築担当のフランス人技師が設計・建築



頼まれて僅か50日で設計図を書き上げた。それは横須賀の工場をモデルとしてその図面を拡大・縮小したもの。建築担当3番目の技師バスティアンが派遣されたが、

▲横須賀造船所の製網所がモデルで富岡製糸場の東西繭倉庫ができた ▶

図面はフランス語、寸法はメートル法で書かれていたからバスティアンはそれが解読・換算できる横須賀造船所の日本人大工を連れて来て、建築を指導した。ちなみに富岡製糸場建設は1年で予算24万ドル・横須賀製鉄所は4年計画で予算240万ドルだった。

2、経営もフランス式

建物や機械の設備（ハード）が出来ると、その経営（ソフト）も横須賀にならってブリュナに任せフランス式経営で運営された。わからないことは外国人に学ぶことを恥としない日本人の民度の高さは、江戸時代260年間の平和による文化教育が生み出したものであろう。

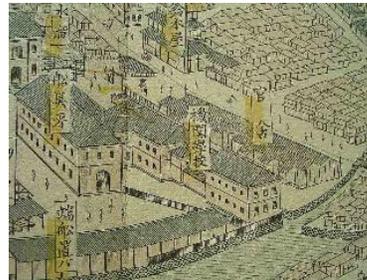
【群馬県の例 2】◇中島飛行機は横須賀の弟

横須賀で学ぶ



中島知久平は尾島村（太田市）の生まれ。明治40年に横須賀の海軍機関学校を卒業、しばらく海軍に勤め飛行船や飛行機を研究したのち「陸海軍が国費で作っているのでは外国の飛行機の進歩に遅れる、飛行機は民間で作るべき」として、退職すると横須賀海軍工廠の技師や

◀中島知久平 職工を誘って太田町（太田



#### ▲海軍機関学校

で運ばば爆弾ははるかに遠くまで届き、しかも確実に落とせる」として、飛行機の研究生産を主張した。

戦後は各会社に

戦後、中島財閥は解体されスバル（富士重工）・THKリズム・富士機械・輸送機工業・マキタ・GKNドライブラインテクノロジー・イワフジ工業・プリンス自動車→日産自

動車・東邦化学株式会社などとなった。いずれも横須賀造船所からつながる高い技術力によって革新的な製品を生み出している。

市）に飛行機会社を興し、飛行機の研究製作を開始した。

#### 大艦巨砲主義批判

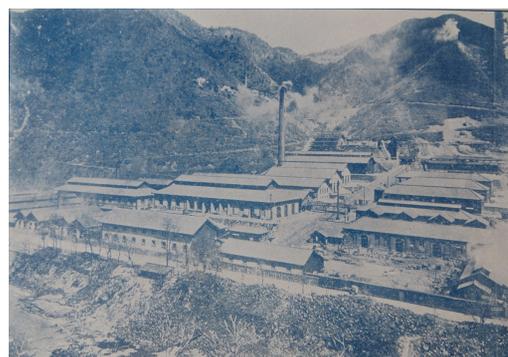
中島は日本海海戦以来、世界の大勢が大艦巨砲主義に陥っていることを批判「資源の乏しい日本が欧米列強国と大艦巨砲製作で競争したら、軍事費が膨れて国民が疲弊する。飛行機なら戦艦一隻の予算で数百機作れる。それを船



【兵庫県の例】

#### ◇生野銀山は義弟 一横須賀造船所の機械で近代化

生野銀山（兵庫県朝来市）は古来大量の銀や鉛石類を産出し江戸時代は幕府直轄鉱山であった。明治政府はこれを引き継ぐとフランス人鉱山技師コワニエらを雇って近代化を図った。コワニエは横須賀造船所に蒸気機関やボイラー・採掘・選別・鋸解の機械類を発注し、日本で製作できない機械は横須賀からフランスに発注して設置した。それまで「狸掘り」で膝をついて坑道を進み採掘していたのを、立って作業し、エレベーターで上下して深く掘り進め、トロッコで搬出、機械を用いて選別・鋸解する方式に改めた。コワニエも横須賀と同じく工業学校を開いて地元子弟に実習講義を行い、優秀な鉱山技師を育てている。



# ◇会津・熊倉（喜多方市）で 小栗上野介家臣佐藤銀十郎の 墓前顕彰祭

小栗道子夫人を会津へ護衛した佐藤銀十郎（権田村出身）が会津軍と共に戦い戦死した喜多方市熊倉で、9月11日（火）午後、地元熊倉史学会主催「戊辰150年墓前顕彰祭」が行われた。

越後から次第に会津盆地へと西軍に攻め込まれた会津戦争の中で、慶應4年9月11日朝、近づく西軍兵を十分に近くまでひきつけて反撃し、大きな損害を与え勝利できた戦いだった。その戦闘で佐藤銀十郎は銃弾に倒れて杉ノ下共同墓地に葬られ、会津の人によって建立された墓碑が残されている。

▲佐藤の右が中根米七の墓



今回の顕彰祭は、佐藤と共に戦ったのち明治11年の思案橋事件で追われる身となり、佐藤の墓近くで割腹自刃していた中根米七と、熊倉宿の代官所米蔵から会津若松城へ米を搬送する手配をしていたが、西軍総攻撃で搬入不可能となり、残った米を焼却して八月二十一日に切腹した代官川手幸八も併せて供養した。



▲墓前に焼香する

小栗上野介顕彰会は市川平治会長、深井紘・小林富造副会長ら7名が参列

◇高郷地区の塚越富五郎慰霊碑・新潟市法音寺の小栗忠高の墓

顕彰会一行は、帰途に喜多方市高郷地区一竿でやはり戦死した塚越富五郎の慰霊碑と、新潟市法音寺の小栗忠高墓を訪ね、香を手向けて墓参した。法音寺には立派な位牌も本堂に祀られている。「忠高院天真清鑑居士」と戒名が刻まれ、左右に「安政二乙卯年 七月二十八日」とあった。会津への途中忠高の妻邦子や道子夫人らも拜んでいる。



# ◇小栗道子夫人の故地（姫路市林田町） 播州林田藩主建部家 訪問 史蹟調査と講演

たけまさあつ

小栗道子夫人は播州林田藩八代目藩主建部政醇の娘。10月4日その林田を訪ねて陣屋跡の聖ヶ岡・建部神社・藩校敬業館の講堂・大庄屋旧三木家住宅などゆかりの史蹟を見学調査、午後は「はやしだ交流センターゆたりん」で小栗上野介の講演を行い、センター理事長三木清一氏（たつなみ会員）のお世話で町民の皆さんに熱心に聴いていただいた。

## 陣屋跡と建部神社

かつて「建部家は日本武尊命の子孫だからタケベ」と建部東子氏が語っていた。藩主建部家の陣屋跡は聖ヶ岡と呼ばれ、忠順の義父政醇が「建部聖岡殿」と『小栗日記』に10回登場する。古絵図では周囲に堀を廻らしていた。今は梅林となり、周囲に古い石垣が少し残る。石垣中央の階段を下ると初代藩主政長を祀る「建部神社」。



社殿は火災に遭って、昭和年代に建て直された。▲林田藩陣屋跡藩校敬業館の講堂

七代政賢が創設し、幕末に火災に遭うが再建したもの。隣の林田支所のあたりも含めた敷地に練武場や文庫などがあったという。

## 大庄屋旧三木家住宅

あが 英賀城（姫路市）が落城し逃れた三木定通が帰農定住した家で周囲は白い土塀の豪農屋敷。兵庫県重要文化財に指定。広い庭が隅まで薄茶色く三和土で固められているのは珍しい。床の間の掛軸の絵に政醇直筆の賛があった。



## ▼神戸新聞 平成30年10月5日記事

神戸新聞 2018年10月5日 (第3種郵便物認可)

# 埋もれた歴史に光を

## 群馬の顕彰会 ゆかりの林田巡る



敬業館を見学する一行＝姫路市林田町林田

幕末の勘定奉行横須賀製鉄所設立 小栗上野介  
日本の近代化を支えた小栗上野介（1802〜68年）の顕彰会（事務局・群馬県高崎市）が4日、小栗の妻、道子ゆかりの姫路市林田町を訪れた。道子の父建部政醇が藩主を務めた林田藩の藩校や陣屋跡を巡り、そのルーツと人物像に思いをはせた。（井上太郎）

## 日本近代化に功績 顕彰会理事が講演 「兵庫商社」を設立



小栗上野介顕彰会理事で、東善寺の住職村上善賢さん（74）が4日、姫路市林田町の「はやしだ交流センター」で講演し、日本の近代化において小栗が果たした役割や兵庫県ゆかりを紹介した。写真は、妻が紹介した「写真」を、妻が次の通り「旗本の家を継いだ小栗は34歳で遣米使節の一員としてワシントン海軍造船所を視察した。造船所が「船も造る総合工場」として驚く運ばれてきた鉄の塊が大砲、パイプ、ターレットの羽根、鍋にやかんまで何にも揃っていた。幕府軍に斬首された小栗が、先を読み、国の未来を考え続けた功績はもっと広く知られている。」（まどめ・井上太郎）

## 本

# 『姫君たちの明治維新』

岩尾光代著 文春新書 980円+税



『サンデー毎日』連載の「おんな維新物語」シリーズの昨年7月23日号で掲載されたもの。P242から「主戦派の夫が斬首され、奇跡の逃避行 小栗道子」として、会津逃避行を中心に道子夫人が紹介されている。

◆文中の疑問・訂正をいくつか  
・サブタイトル「主戦派の夫…」…恭順するという主君を討とうとする西軍に対し朱子学を学んだ武士なら戦うことを提議するのが当然。但し、自分の提議を容れない主君は見限って「そのもとを去る」のも武士。だからその後、彰義隊に誘われても断っている。勝海舟が小栗を「徳川絶対主義者」と評した言葉が未だに尾を引いているサブタイトル。

- ・権田地区の顕彰慰霊碑 →水沼地区
- ・義弟を高崎へ →養嗣子の又一のこと
- ・裏山の竹藪に潜んでいた…権田村奥のヤブに潜んでいた。寺の裏山は急傾斜で狭く、すぐ見つかってしまう。